

「指導と評価の一体化」のための 学習評価の在り方

大分県教育庁日田教育事務所

【本日のゴール】

「指導と評価の一体化」のための学習評価の在り方について理解し、自校での校内研修の持ち方のイメージを持つことができる。

本日の内容

はじめに

- 1 学習評価の改善点
- 2 単元の指導計画について
- 3 1時間の授業を構想することについて

おわりに

はじめに



「指導と評価の一体化」とは

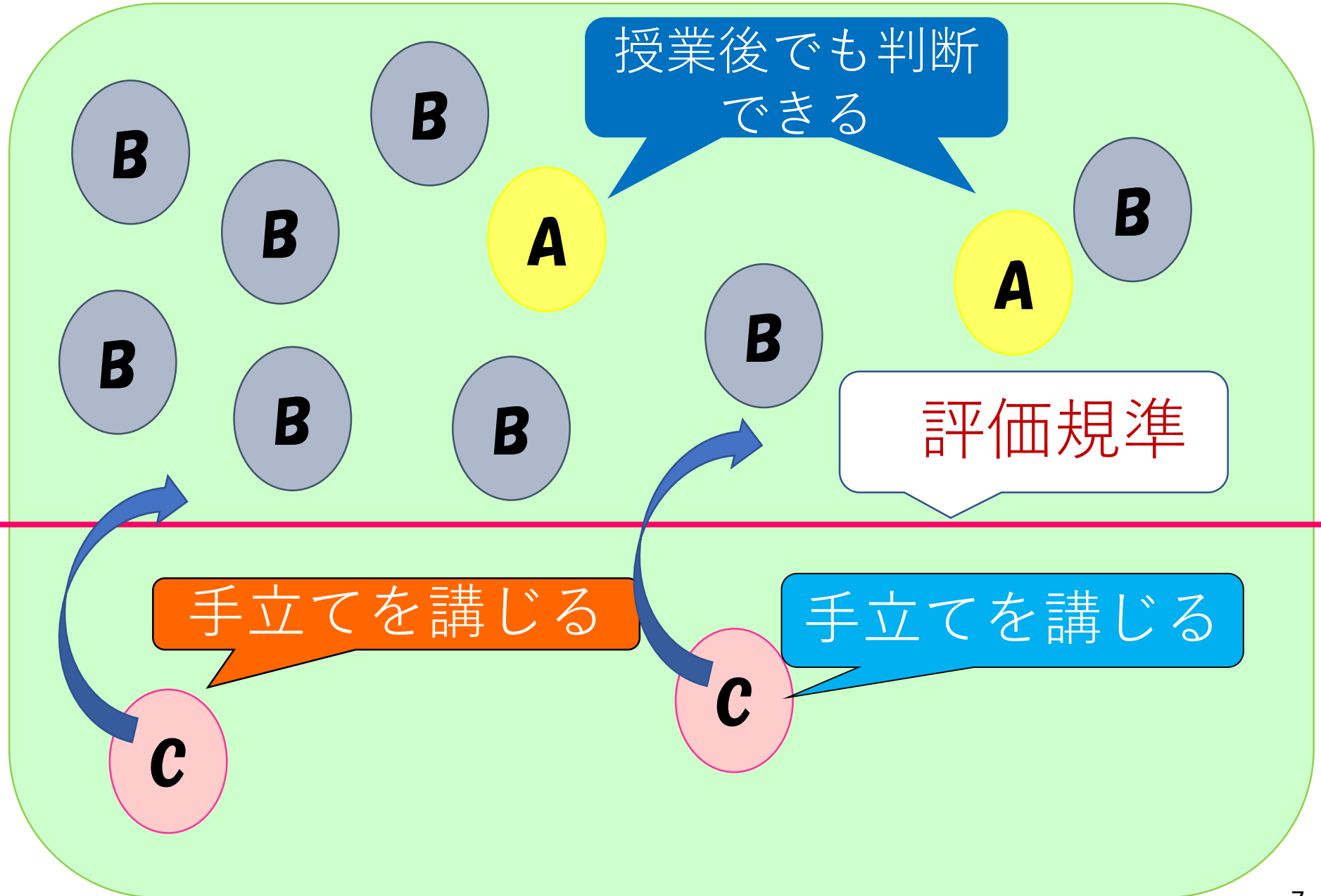
評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、

指導に生かす評価を充実させること

このことを「指導と評価の一体化」と言います。

評価規準とは何でしょうか。

評価の観点別に「B おおむね満足できる」状況を示したものの



学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、**学習評価の充実**

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における**「カリキュラム・マネジメント」**の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化，高校の新科目「公共」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し，目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など，新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず，質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については，些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており，そうした点を克服するため，重要用語の整理等を含めた高大接続改革を進める。

1 学習評価の改善点



学習評価について指摘されている課題

- ①学期末や学年末などの事後での評価で、児童生徒の学習改善につながっていない
- ②「関心・意欲・態度」の観点について挙手の回数やノートを取っているかなど、一時的に表出された場面で評価
- ③教師によって評価の違い
- ④評価の記録に労力が割かれて指導に注力できない
- ⑤指導要録等が次学年や次学校段階に十分活用されていない

<参考> 報告P. 4~5

学習評価の改善の基本方針

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、
必要性・妥当性が認められないものは見直し
ていくこと

＜参考＞報告P. 5

具体的に、

学習評価はどの様に改善されたのでしょうか。

評価の観点について

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理。

<平成20年改訂>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

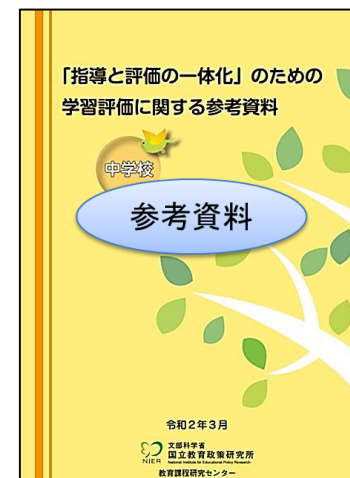
知識・理解

<平成29年改訂>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度



- ◆ 学習指導要領と学習評価が整う
- ◆ 各教科等の評価の観点が整う

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

学習指導要領 目標

学習指導要領 内容

学習評価 観点

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

観点別学習状況の評価の改善について

現行の評価の観点

「知識・理解」

(各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価)

「技能」

(各教科等において習得すべき技能を児童生徒が身に付けているかを評価)

<評価方法の工夫(例)>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・児童生徒に文章により説明をさせる。
 - ・(各教科等の内容の特質に応じて)観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

<参考>報告P. 7~8

事実的な知識

「閉ざされた問い」 Closed Question

例)



- ①江戸幕府を開いたのはだれか。
- ②江戸幕府が開かれたのはいつか。
- ③武家諸法度とは何か。

例)

- ①
- ②
- ③



概念的な知識

個別の知識が関連付けられ統合されたもの
「開かれた問い」 Open Question

例)

徳川幕府は、どのようにして地方の大名を従わせていたのだろうか



武家諸法度

大名の配置

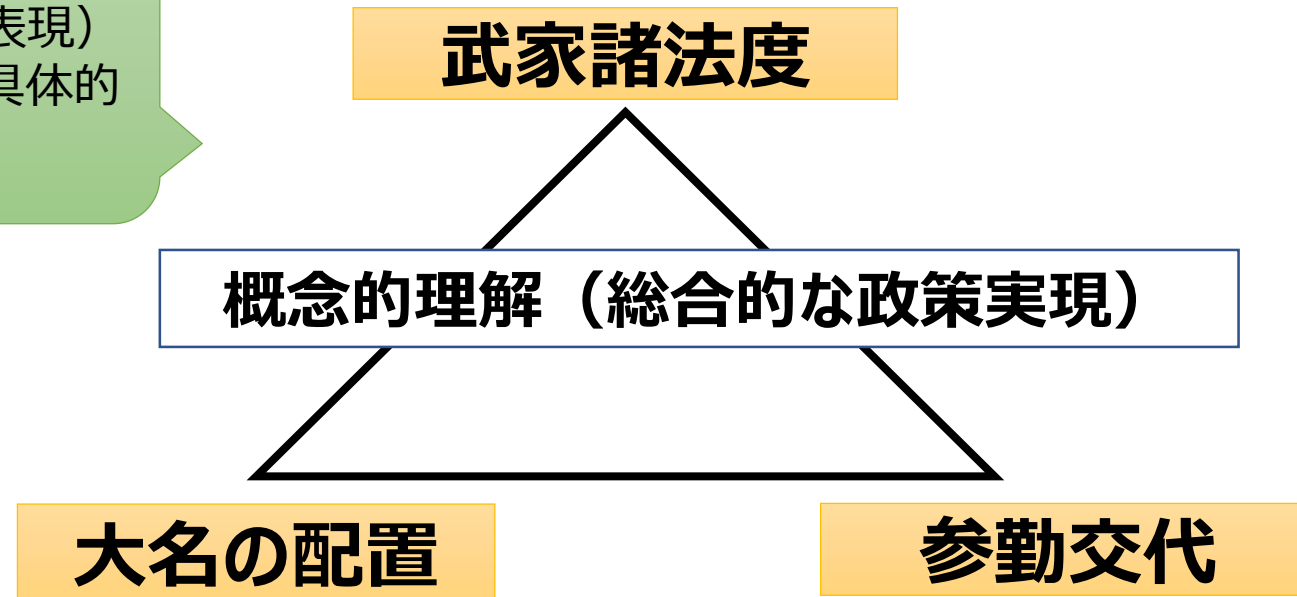
参勤交代



例) 徳川幕府は、どのようにして地方の大名を従わせていたのだろうか

それぞれの政策の発表を聞いたり、資料で確認したりして・・・

どのような記述（表現）
を期待するのか、具体的にイメージしておく



それぞれの政策は一体となって地方大名の財政力を弱めようとしているという総合的な政策実現への道筋を理解している。

永続的な支配構造を生み出した理由を、3つの政策の共通点や関係性から見だし表現する。

事実的な知識の習得を問う問題

知識の概念的な理解を問う問題

概念的な知識

～外国語科～

■問題例②（主に「知識」を評価する問題）

以下は電話でのやりとりです。AとBのどちらかの発話に誤りが1カ所誤ります。その誤りがある文を正しい文に書き換えなさい。

A: Hello. Are you busy now?

B: Not really. I watch TV.

(ア) 採点の基準

現在進行形を用いた文に関する英語の特徴やきまりを理解しているもの。 (正答) I'm watching TV	○
現在進行形を用いた文に関する英語の特徴やきまりを理解していないもの。 (誤答例) I watching TV. I watch TV now.	×

文法を知ってたら・・・

■問題例③（主に「技能」を評価する問題）

以下は、AとBのSNS上でのやり取りです。対話の流れに合うように、()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英語を完成させなさい。

A: Where are you now?

B: I am at ABC park with Ken.

A: What are you and Ken doing?

B: (play) basketball now. Come and join us!

(ア) 採点の基準

人称や現在進行形の特徴やきまりを理解して正確に書いているもの。または、大文字・小文字の書き分けや綴り等に誤りがあるがコミュニケーションに支障がないもの。 (正答例) We are playing / we are playing	○
人称や現在進行形の特徴やきまりを理解せず正確に書いていないもの。 (誤答例) I am playing Ken and I/I and Ken are playing Ken and I/I and Ken am playing	×

○対話から状況を読み取る力

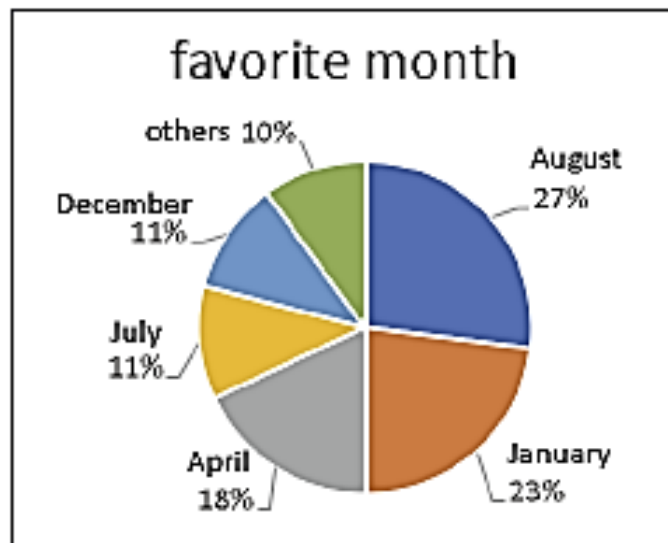


○人称や現在進行形の特徴や決まりを理解して表現する力



下の円グラフは、中学生150人を対象に行われた「好きな月調べ」の調査結果です。この円グラフを表す英文として正しいものを選びなさい。

- ① January is the most popular month.
- ② July is not as popular as April.
- ③ April is more popular than any other months.
- ④ December is more popular than August.



(正解) ②

- 教科横断的な知識
- 比較級の表し方

⇒ 知識を繋げて表現する力



「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力, 判断力, 表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

＜評価の工夫(例)＞

- 論述やレポートの作成, 発表, グループでの話し合い, 作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

＜参考＞報告P. 8～9

単元の評価規準

知識・技能

身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、日周運動と自転、年周運動と公転についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。

思考・判断・表現

天体の動きと地球の自転・公転について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の動きと地球の自転・公転についての特徴や規則性を見いだして表現しているとともに、探究の過程を振り返るなど、科学的に探究している。

主体的に学習に取り組む態度

天体の動きと地球の自転・公転に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。



【第4時（総時間数9時間）】

【ねらい】

星の一日の動きについて、コンピュータシミュレーションや写真を用いて観察者の視点（位置）を地球の外に移動させ、太陽の一日の動きの特徴と関連付けながら透明半球上に表すことを通して、その動きを見いだすことができるようにする。

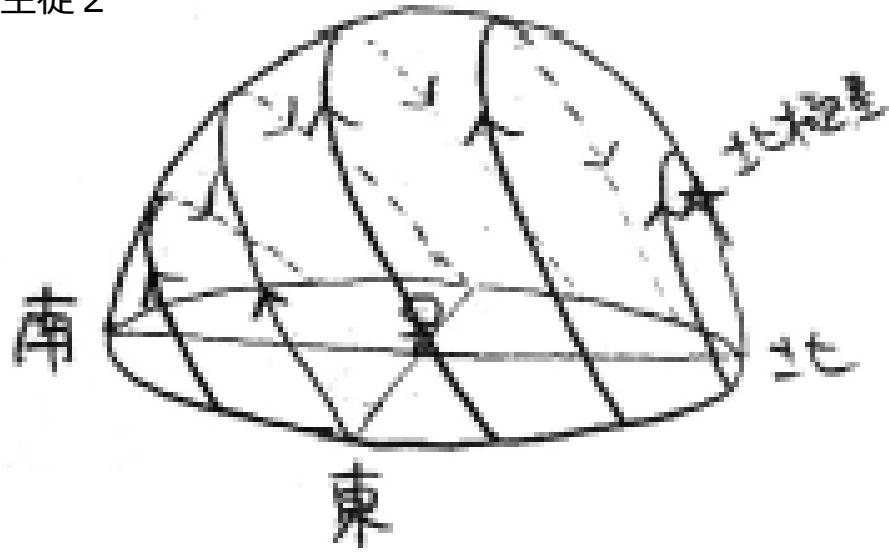
（理科の見方・考え方） 多面的に見る、関連付ける

新学習指導要領中学校理科改訂のポイント

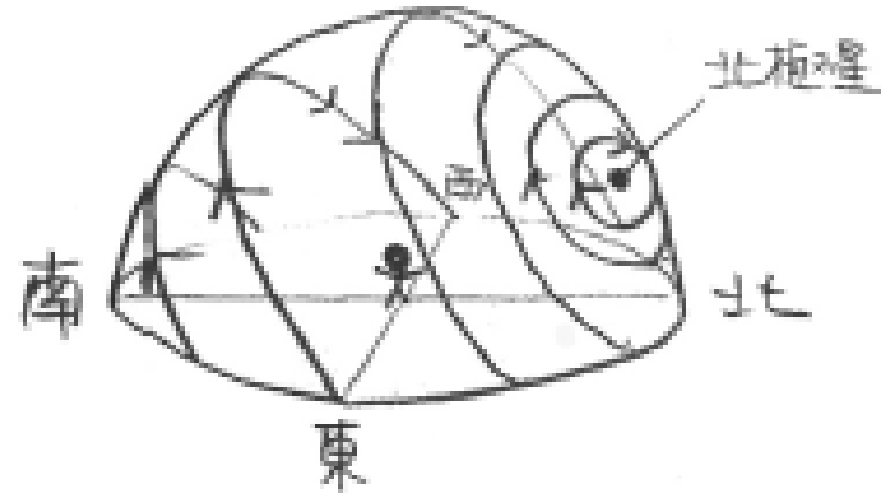
(3)「理科の見方・考え方」

学年	主に働かせる 理科の見方・考え方 [解説：P. 12] (問題解決を図るための思考の働かせ方)
全 学 年	「比較する」 : 差異点や共通点を明らかにするなど
	「関係付ける」 : 変化とそれに関わる要因を関係付けるなど
	「条件を制御する」 : 制御すべき要因と制御しない要因を明確に区別しながら計画的に観察, 実験を行うなど
	「多面的に考える」 : 観察、実験の再検討や複数の観察, 実験結果からの考察など

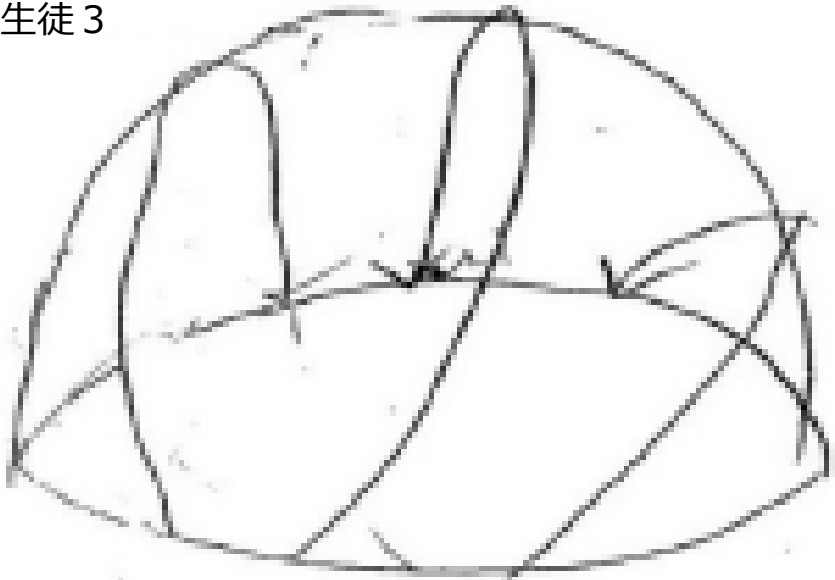
生徒2



生徒1



生徒3



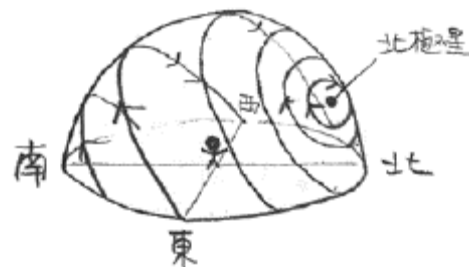
生徒の学習状況を捉えるために、具体的な評価規準を定めます。

評価規準（例）

「透明半球に貼った星の写真と合致するように、星の動きを線と矢印で表し、その特徴を見いだして表現している。」

中学校理科 第3学年「天体の動きと地球の自転・公転」の例

生徒1

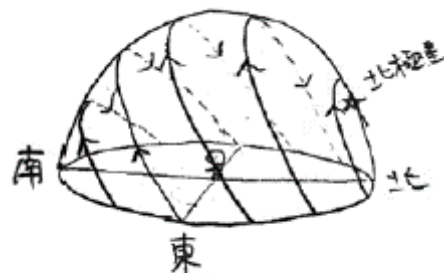


- ・東, 西, 南, 北の空の星の一日の動きは正しく描けている。
- ・透明半球の内側からも外側からも矢印の向きが正しく描けている。
- ・星の一日の動きの特徴を見いだしている。



「十分満足できる」状況
(A) と評価

生徒2

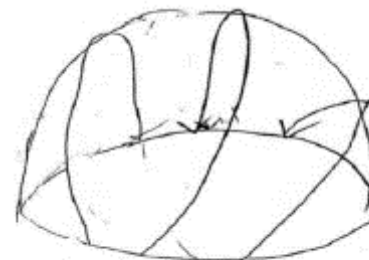


- ・東, 西, 南の空の星の一日の動きは正しく描けているが, 北の空の星の動きが正しく描けていない。
- ・透明半球の内側からの星の一日の動きの特徴は見いだしている。



「おおむね満足できる」状況
(B) と評価

生徒3



- ・方位を基準として描いていない。
- ・透明半球の内側からの星の一日の動きの特徴を見いだしていない。



「努力を要する」状況
(C) と評価

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】
天球の概念や, 天球のモデルである透明半球について再確認し, 観察者の視点(位置)を意識しながらコンピュータシミュレーションを再観察して, 透明半球にもう一度表すなど個別に指導を行い, 思考力, 判断力, 表現力等を身に付けることができるように支援する。



「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「学びに向かう力，人間性等」には，㉠主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と，㉡観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。

学びに向かう力，人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分
(感性，思いやり等)

㉡

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

㉠

個人内評価(児童生徒一人一人のよい点や可能性，進歩の状況について評価するもの)等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性，進歩の状況などについては，積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で，自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

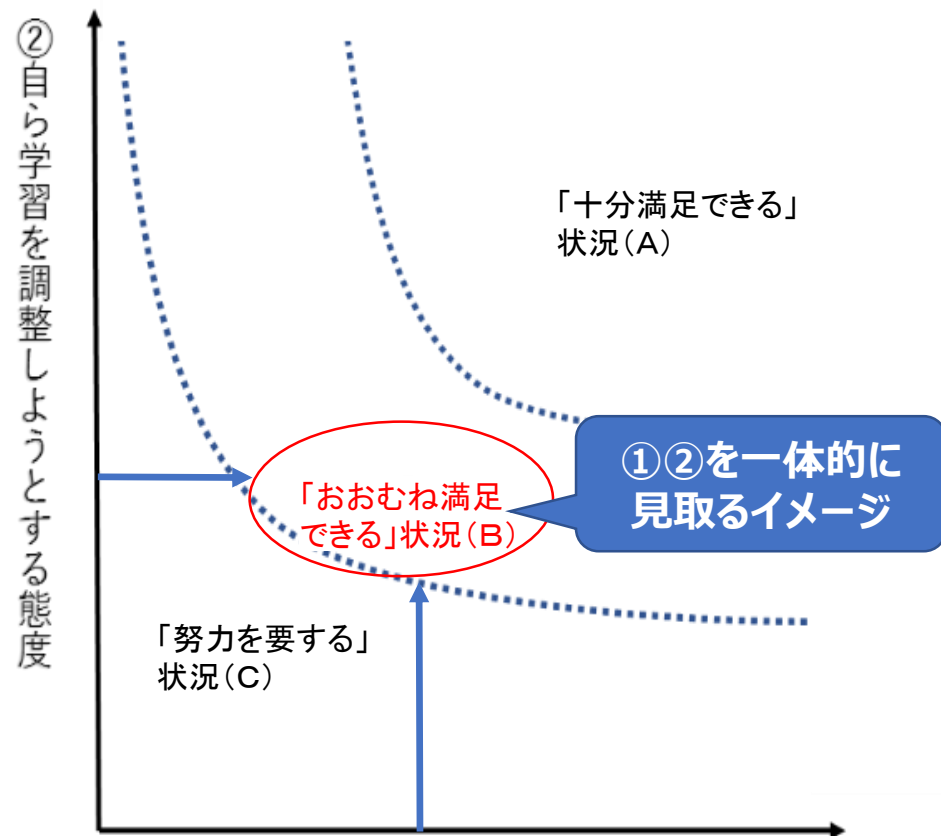
<参考> 報告P. 9

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、拳手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげる、といった学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の評価を行うということではない。

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習の調整をしようとする側面



「主体的に学習に取り組む態度」の評価

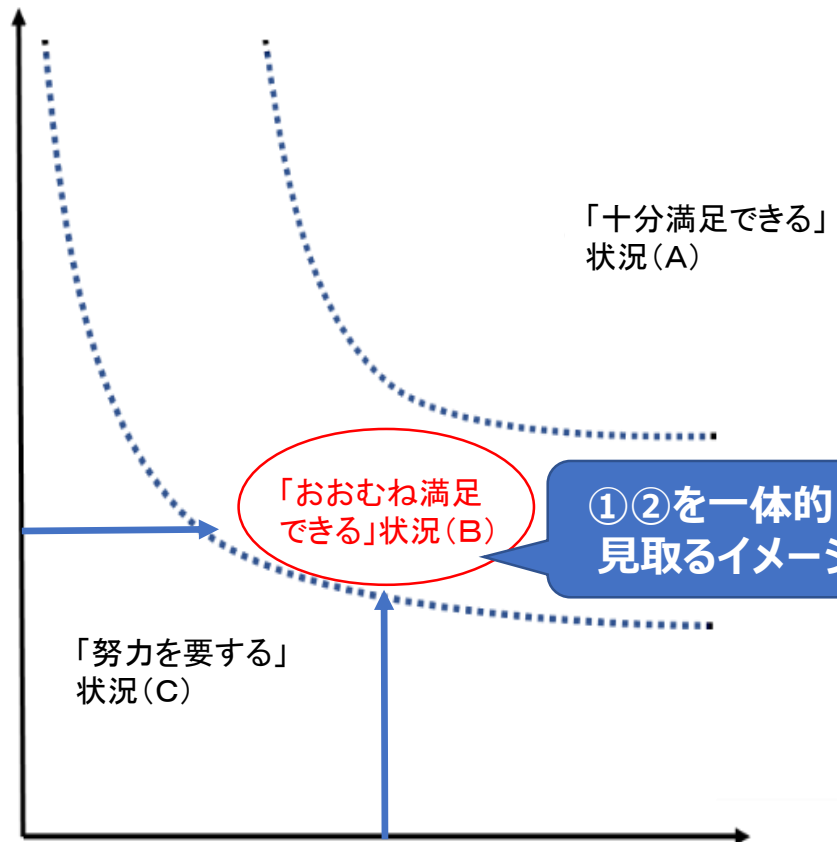
「主体的に学習に取り組む態度」については、挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動ではなく、「子供たちが自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげる、といった学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしているかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。

単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の評価を行うということではない。

これら①②の姿は、実際の教科等の学びの中では別々ではなく、相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。

例えば、自らの学習を全く調整しようとせず、粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整しようとする姿は一般的ではない。

②自ら学習を調整しようとする態度



中学校理科 第3学年「天体の動きと地球の自転・公転」の例

評価規準(例)

太陽や星の日周運動について、モデルを用いて試行錯誤しながら、地球の自転の向きを推論しようとしている。

〈ワークシートの構成例〉

天体の日周運動から、どの向きに地球は自転していると言えるか、根拠を示して考えを書きましょう。
学習前の考え
学習後の考え
自転の向きを考察する過程で、どのように解決しようと思いましたか。学習前後の考えを比較して記述しましょう。



生徒1

モデル実験の結果を実際の太陽の動きと合わせて考えた。乗り物に乗って目の前の風景が近づいてくるように見えることと原因は同じことに気付いた。地球が自転する映像はよく見るが、自転の向きを方位で考えたことがなかったので、楽しんで取り組めた。



学習方法や課題を解決しようとした取組、学習意欲やそれを高めた方法が記述できている。

「十分満足できる」状況 (A) と評価

生徒2

はじめは何から考えればよいか分からなかったけれど、動く方向と逆に見えると友達が言ったので、なるほどと思った。



学習方法や課題を解決しようとした取組が記述できている。

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価

生徒3

友達の話を聞いて分かった。



学習方法や課題を解決しようとした取組の記述がない。課題を解決できたことも把握できない。

「努力を要する」状況 (C) と評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

＜評価の工夫(例)＞

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。

例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して

「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。

＜参考＞報告P. 13

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

評価規準(例)

習得した知識及び技能を活用して、力学台車に働く力の大きさと力学台車の速さの変化を関係付け、試行錯誤しながら、課題を説明しようとする。

授業の「振り返り」を活用

注：「今日の授業の感想」だけでは評価できない。

振り返りシートの一部(例)

1 「どのような知識及び技能を活用したか」

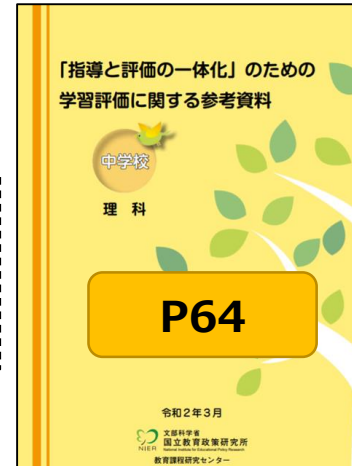
(この時間の活動について、課題を説明するためにあなたが手がかりにしたことや意識したことなど)

2 「誰とどのような対話をしたか」

- ・自分の考え
- ・班で話し合った後の考え

3 「何に気付いたか」

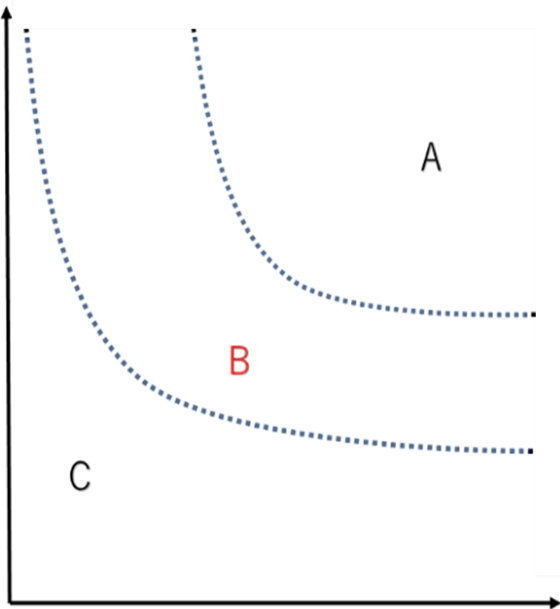
(課題を設定し解決する学習を行い、大切だと感じたことや学習を進める上で気付いたポイントなど)



「主体的に学習に取り組む態度」の評価

教科部会

②自ら学習を調整しようとする態度



①粘り強く学習に取り組む態度

教科名

単元名

(/)

評価規準

評価方法

想定する子どもの姿 (評価基準)

A

B

C

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元末や学期末、学年末の結果として算出された評価の結果が

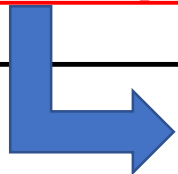
「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、

「CCA」「AAC」といったばらつきのあるものとなった場合、

児童生徒の実態や**教師の授業の在り方**などその**ばらつきの原因**を検討し、

必要に応じて、児童生徒への支援を行い、**児童生徒の学習**や**教師の指導の改善**を図るなど速やかな対応が求められる

<参考>報告P. 12~13



「生徒による授業評価」等の活用

「中学校学力向上対策 3つの提言」

1 学校の組織的な授業改善による「新大分スタンダード」の徹底

- ①生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業を充実させるとともに、習熟度別指導を積極的に導入する。
- ②教科の壁を越え、全ての教科に共通した授業改善の取組内容を設定し、その視点に基づく互見授業・授業研究を実施する。

2 学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築

- ①小規模校は、校内研修の枠で、近隣の学校と合同教科部会をもち、指導案や評価問題、教材の作成等を行う。
- ②複数の教科担任がいる学校は、教科担任の「タテ持ち」や日課表・週時程表に位置づけた教科部会の実施により、相談や切磋琢磨できる環境を作る。

3 「生徒と共に創る授業」の推進

- ①生徒による授業評価を実施し、それを授業改善に反映する。
- ②学校が目指す授業像を生徒と共有し、それに向かう学習集団としての目標を設定させ、適宜振り返り活動を行う。



学習評価はどの様に改善されたのか。

- ① 評価の観点が3つに整理
- ② 「知識・技能」をペーパーテストで評価する際は、事
実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を
問う問題とのバランスに配慮する
- ③ 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する際は、学習
に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を
獲得したり思考・判断・表現しようとしているかという、
意思的な側面を捉えて評価すること

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

【主な内容】

第1章 総説

- ・平成29年度改訂を踏まえた学習評価の改善
- ・学習評価の基本的な流れ

第2章「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

- ・各教科等における評価を行うに当たって
- ・各教科等における「内容のまとめり」
- ・各教科等における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順
- ・各教科等における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

第3章

- ・単元ごとの学習評価について（事例）

日田教育事務所HPにリンク

<https://www.pref.oita.jp/soshiki/31006/>

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
(令和2年3月 国立教育政策研究所)



いつ、何を、どのように評価するか。

2 単元の指導計画について



教科書会社の単元計画ではだめなの？

中学校第1学年数学「方程式」第1章方程式とその解き方

3章 未知の数の求め方を考えよう【方程式】 (14時間)

東京書籍第1学年「数学」学習指導計画

単元の評価規準例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 方程式の必要性和意味を理解している。 方程式の解や等式の性質、移項の意味を理解している。 等式の性質の意味を理解し、等式の性質を用いて方程式を解くことができる。 移項の考えを用いて方程式を解くことができる。 簡単な1次方程式、比例式を解くことができる。 事象の中の数量やその関係に着目し、1次方程式をつくることができる。 1次方程式を用いて具体的な場面の問題解決を行うときの、解の吟味の意味と必要性を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質をもとにして、1次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 方程式において、移項できる理由を等式の性質をもとにして考察し表現することができる。 具体的な場面の問題において、1次方程式を活用し、問題を解決することができる。 具体的な場面の問題において、解を吟味して解答としてよいことを判断することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 方程式の必要性和意味を考えようとしている。 正負の数や文字を使った式で学んだことを生かして、方程式を効率的に解く方法を検討している。 方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。

毎時の評価規準例

節	項	時	目標	学習活動	評価規準例		
					知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 方程式とその解き方	紙バックの枚数を求めてみよう (教科書 p. 89～91)	1	求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して解決することを通して、方程式の必要性を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 集めた紙バックが何枚あるかを、紙バックの回収について分かったことから、式や図を使って求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考え、式や図を使って説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○求めたい数量がある問題を、既習の内容を活用して考えようとしている。 	
	1 方程式とその解 (教科書 p. 92～95)	2	方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 方程式とその解の意味を知る。 方程式の中の文字に値を代入して、解であるかどうかを確かめる。 [用語・記号] 方程式、(方程式の) 解 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式とその解の意味を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式の必要性和意味を考えようとしている。 	
		3	等式の性質を使って、方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考える。 等式の性質を使って方程式を解く。 [用語・記号] 方程式を解く、等式の性質 	<ul style="list-style-type: none"> ○等式の性質を理解し、等式の性質を使って方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式を解く方法を、てんびんの操作と結び付けて考え、説明することができる。 	
	2 方程式の解き方 (教科書 p. 96～97)	4	移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を使って方程式を解く過程を振り返って、移項の考えを見いだす。 移項の考えを使って方程式を解く。 移項の考えを使って方程式を解く手順を確認する。 [用語・記号] 移項 	<ul style="list-style-type: none"> ○移項の意味を理解し、移項の考えを使って方程式を解くことができる。 ○移項の考えを使って方程式を解く手順を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○方程式を効率的に解く方法を考えようとしている。 	

今、教師に求められる力の一つ

単元を構想する力

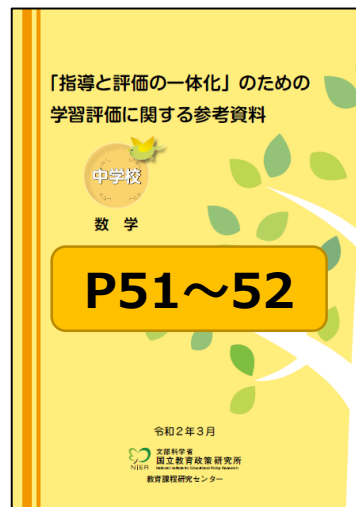
第1学年「一元一次方程式」指導と評価の計画（例）全15時間

1 単元の目標

- 一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
- 文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。
- 一元一次方程式について、数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。 ②簡単な一元一次方程式を解くことができる。 ③等式の性質と移項の意味を理解している。 ④事象の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができる。 ⑤簡単な比例式を解くことができる。	①等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。	①一元一次方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。 ②一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。



3 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考				
1	・まだ分かっていない数量を求める場面で、算数で学んだ内容を振り返りながら、方程式の必要性を理解できるようにする。	知		知①：行動観察	8	・算数で学んだ方法と比較することなどを通して、方程式を活用して問題を解決する方法を理解できるようにする。	知	知①：行動観察
2	・方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができるようにする。 ・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知		知①：小テスト 態①：行動観察 振り返りシート	9	・方程式を値数と代金に関する問題など具体的な場面で活用することを通して、問題の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができるようにする。	知	知④：行動観察 小テスト 思②：行動観察
3	・具体物の操作等を通して等式の性質を知り、これを基に一次方程式を解く方法について考察し表現することができるようにする。	思		知③：行動観察 思①：行動観察	10	・方程式を過不足の問題など具体的な場面で活用することを通して、方程式を活用して問題を解決する方法を理解することができるようにする。	知	知④：行動観察 小テスト 思②：行動観察
4	・一次方程式を解くときに、移項することで能率的に解くことができることを理解できるようにする。	知		知②③：行動観察	11	・速さに関する問題を解決することを通して、方程式を用いて求めた解が問題に適切かどうかを考え、説明できるようにする。	思	○ 思②：行動観察 小テスト
5	・移項して一次方程式を解くことができるようにする。	知		知②③：行動観察	12	・比例式の性質を知り、それを用いて比例式を解くことができるようにする。	知	知⑤：行動観察
6	・かっこ、小数を含む一次方程式を解くことができるようにする。	知		知②：行動観察	13	・比例式の性質を利用して具体的な問題を解くことができるようにする。 ・振り返りシートに分かったことや疑問、問題の解決に有効であった方法などを記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。	思	思②：行動観察
7	・小数、分数を含む一次方程式を解くことができるようにする。 ・一元一次方程式の解き方について振り返り、自分の解き方を改善しようとする態度を養う。	知	○	知②③：小テスト ノート 態①②：行動観察 振り返りシート	14	・小単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価できるようにする。	知 思	○ 知④：小テスト ○ 思①②：小テスト

評価の進め方

評価の進め方

① 単元（題材）の
目標を作成する



② 単元（題材）の
評価規準を作成する



③ 「指導と評価の計画」を
作成する



④ 授業を行う



⑤ 観点ごとに総括する

留意点

- 学習指導要領で指導事項を確認する。
- 学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態，前単元（題材）までの学習状況等を踏まえて作成する。

- 1，2を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート，ワークシート，作品等）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するか考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- 3に沿って観点別学習状況の評価を行い，生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの総括的評価（A，B，C）を行う。



②単元の評価規準を作成する

A(3)一元一次方程式【学習指導要領解説P71】

一元一次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 (ア) 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。
 (イ) 簡単な一元一次方程式を解くこと。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 (ア) 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。
 (イ) 一元一次方程式を具体的な場面で活用すること。



内容のまとめりごとの評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。 簡単な一元一次方程式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一元一次方程式のよさに気付いて粘り強く考え、一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしていたりしている。

第1学年の目標

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えようとする態度を養う。

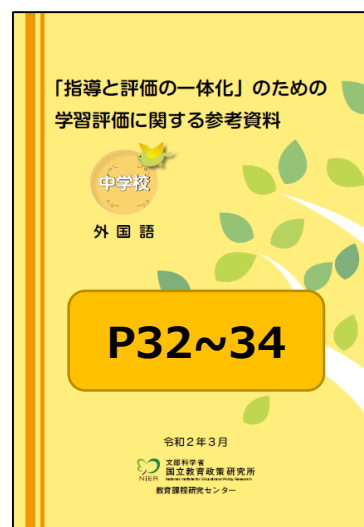
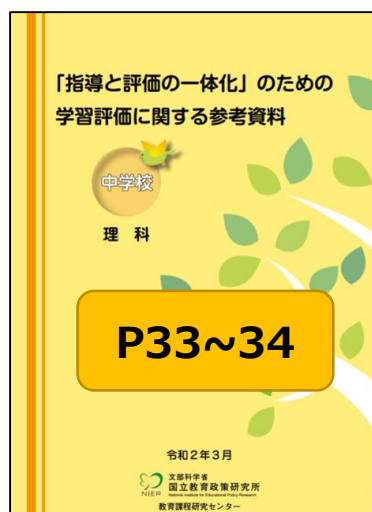
単元の評価規準

(**具体的**な内容のまとめりごとの評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解している。 ②簡単な一元一次方程式を解くことができる。 ③等式の性質と移項の意味を理解している。 ④事象の中の数量やその関係に着目し、一元一次方程式をつくることができる。 ⑤簡単な比例式を解くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現することができる。 ②一元一次方程式を具体的な場面で活用することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①一元一次方程式の必要性と意味及び方程式の中の文字や解の意味を考えようとしている。 ②一元一次方程式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一元一次方程式を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。



評価規準の作成手順を確認してみま しょう



早わかり！単元計画の作成手順

～中学校 外国語科 第3学年
「話すこと[やり取り]」を例にして～

1. 指導する領域別目標を確認する・・・「学習指導要領」を読みましょう！

- 外国語科では「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の5つが、領域別目標として設定されています。
- 指導すべき内容の領域別目標を指導者が分かっていなければ、子どもに力をつけることはできません。
- 「学習指導要領」には、外国語科において、下のように領域別目標が示されています。

p.47

話すこと [やり取り]	ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。
----------------	--

2. 単元の目標を設定する・・・単元でどんな力をつけるのか明確にしましょう！

- 領域別目標をしっかりと理解した上で、単元の目標を設定します。
- 各学校が設定する学習到達目標(CAN-DOリスト)をもとに、英語を用いて何ができるようにするのがあらかじめ明らかにします。

友達の見聞等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができるようにする。

3. 単元の評価規準を設定する・・・評価のための判断のよりどころを決めよう！

外国語科では、下のような評価規準のフォーマットが示されています。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 【言語材料】について理解している。 <技能> 【事柄・話題】について聞いたり読んだりしたことについて、【内容】を、【言語材料】などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合っている。	【目的等】に応じて、【事柄・話題】について聞いたり読んだりして、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。

指導内容を確認しながら、フォーマットに則って設定します。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 <技能> 野菜の歴史について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の見聞等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。	友達の見聞等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合おうとしている。

外国語科では、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度には深い関わりがあることから、太字下線部のように文末を対の形で示し、両者を一体的に評価することができることとしています。

4. 指導と評価の計画を作成する

- 単元の評価規準では「知識・技能」を分けていますが、理解した「知識」を使うことができる「技能」として、1時間の授業において両者を一体的に評価することができます。
- 単元末に達むにつれて、評価規準を、単元で目指す生徒の姿へと近づけていきます。

単元の指導計画（例）

時	学習活動	評価規準	評価の方法
1	○ 単元の目標を理解する。 ○ 教科書の対話文で使われている未知の語の意味や受け身の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えや感想を伝え合う。	<知識・技能> 受け身の用法と引用するための表現について理解している。	【記述分析】
2	○ 受け身を使って作成された教科書本文とは別の対話文を読み、引用しながら、考えや感想を受け身の英文を使って伝え合う。	<知識・技能> 対話文の内容を引用しながら、考えや感想などを伝え合っている。	【行動観察】 【記述分析】
3	○ 教科書の対話文で使われている未知の語の意味や現在完了形（肯定文）の構造と意味を理解し、対話文の内容に関して引用しながら考えや感想をペアで伝え合う。	<知識・技能> 現在完了形（肯定文）の用法と引用するための表現について理解している。	【記述分析】
(中略)			
7	○ ピクチャー・カードを使い、受け身や現在完了形などを正しく用いながら、教師やALTに教科書の全ての本文内容について説明する。	★<知識> 受け身や現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現を理解している。 ★<技能> 野菜の歴史について聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたことなどを、受け身や現在完了形などを用いて述べ合う技能を身に付けている。	【行動観察】
8	○ 初見の文章を読み、引用するなどしながら考えたことや感じたこと、その理由などを伝え合う。 ○ ペアで話した内容をワークシートに書く。	★<知識・技能> ※第7時と同じ ★<思考・判断・表現> 友達の見聞等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について聞いたり読んだりして、考えたことや感じたことなどを、英文を引用するなどして伝え合っている。 ★<主体的に学習に取り組む態度> 同上）伝え合おうとしている。	【行動観察】 【記述分析】
後日	ペアワーク システム	★<知識・技能> ★<思考・判断・表現> ★<主体的に学習に取り組む態度>	【行動観察】

5. 単元の指導計画(指導と評価の計画)をもとに、本時の評価規準を具体的に作る

【具体的にした第7時の評価規準 <知識・技能>】

野菜の歴史について書かれた教科書本文の内容について、受け身や現在完了形などを正しく用いるとともに、引用するための表現（According to～, A says～など）を使って教師やALTに説明することができる。

【B例】
Daisuke haven't finished homework.
But he have written the body.
According to him, cucumbers are from India.
They came to Japan in six century.
They are grown all over the world now.

「おおむね満足できる状況」と評価

- 評価計画に設定したものを、そのまま活用する場合もありますが、子どもの学習状況に合わせることは、より具体化することが大切です。
- C例は、現在完了について理解が不十分で、引用するための表現を用いて説明することができません。だから、適切な支援が必要なのです。

【C例】
Daisuke wasn't finished homework.
But he written
Cucumbers came to Japan in six century.
Cucumbers are grown in the world.

「努力を要する状況」と評価

現在完了形の特徴やきまり、引用するための表現方法についてももう一度確認し、理解することができるよう支援を行う。

早わかり！ 単元計画の作成手順 ～小学校 国語 第3・4学年「読むこと」を例に～

1. 単元で取り上げる指導事項を確認する。

- ① 年間指導計画等を基に、本単元で取り上げる指導事項を確認しましょう。
- ② 当該単元で指導する指導事項について、学習指導要領解説のページを開いて、具体的な内容や系統性を確認しましょう。

例えば、第3学年及び第4学年「読むこと」では、学習指導要領解説を読んで確認すると、「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること」の中で、「文章の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして文章の内容を短くまとめる」力を身に付けさせることが必要であると確認できます。



- ③ 育成を目指す資質・能力に関する児童の実態や既習事項を確認しましょう。

2. 単元の目標と言語活動を設定する。

- ① 単元の目標を設定しましょう。

確認した本単元の指導事項と当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標から単元の目標を設定します。



- (1) 「知識及び技能」の目標
- (2) 「思考力、判断力、表現力等」の目標

基本的に指導事項の文末を「～できるようにする。」として示す。

- (3) 「学びに向かう力、人間性等」の目標

いずれの単元においても、当該学年の「学びに向かう力、人間性等」の目標に示されている「言葉が持つ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示し、文末は「～するようにする。」として示す。

- ② 言語活動を設定しましょう。

言語活動例を参考に目標を実現するために適した言語活動を設定します。この時に併せて行う必要があるのが「学習者の視点に立った教材研究」です。児童の実態に応じ、教科書を含めた教材をどのように教材化した、どのような手段(言語活動等)によって資質・能力を育成するのかが考えることが重要です。

また、実際に言語活動を教師が行って見て、資質・能力の育成が図られるかを確認することも大切です。



<教材研究にチャレンジ！>

○教材研究とは…教材自体がもっている特徴を明らかにすること。

【例】「世界にほこる和紙」（「国語4下はばたき」（光村図書）

- どのような文章構造になっているか
 - ・「はじめ」(①②) 「中」(③～⑨) 「おわり」(⑩)
 - ・「中」は③～⑥と⑦～⑨に分かれる
- 要約のポイントとなる中心となる文と具体例
 - ・筆者の考え…より多くの人に和紙を使って欲しい。
 - ・和紙のよさ…>やぶれにくくながもちする特徴(よさ)がある
 - >わたしたちは和紙の風合いを美しいと感じ、自分の気持ちを表す方法の1つとして選んできた

*素材の特徴を生かし、指導事項を身に付けさせるためには、どのような言語活動が必要か？

(言語活動) 伝統文化について調べて分かったことをもとに、自分の考えを伝えよう。

3. 単元の評価規準を設定する。

<評価規準作成のポイント>

- 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント
 - ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、評価規準を作成する。
 - ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
 - ・「思考・判断・表現」の評価規準については、その冒頭に、当該単元で指導する一領域について、「(領域名)において」と明記する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント
 - ・「粘り強さを発揮してほしい内容」と自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
 - ・次の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。(①粘り強さ ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該単元の言語活動)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
作成例	主語と述語の関係、修飾と被修飾の関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1カ)	「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約している。(C1ウ)	粘り強く、文章を読んで理解したことに基づいて、考えをもち、学習課題に沿って、まとめたことを伝えようとしている。

4. 「指導と評価の計画」を作成する。単元の指導計画(例)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	・学習のねらいや進め方を捉え、学習の見通しをもつ。	・地域の伝統や文化について、資料を基に考えたことを、ALTに伝えることを知らせる。	
2 3 4	・「世界にほこる和紙」を読み、文章構成と内容を把握する。	・文章構成について、図を使って構造的に捉えさせる。 ・文章構成をもとに、筆者の考えと、その理由が書かれている段落を確認させる。 ・例文を参考に、中心となる語や文と、例として挙げられている部分を読み分けさせる。	[知・技] ノート ・段落の役割を理解するとともに、段落相互の関係を整理している。 [思・判・表] ノート ・中心となる語や文を選んで表に整理している。
5	・筆者の考えが伝わるように、気を付けながら文章全体を要約する。	・整理した中心となる語や文を使って、200字程度で要約させる。	[思・判・表] ワークシート ・中心となる言語や文を使って要約している。



「指導と評価の計画」を作成する際には、主たる学習活動の流れに沿って、どの時間に何を評価するかを整理します。このとき、評価する内容は、「単元の評価規準」と対応していることが重要です。評価方法についても、評価する内容をそれぞれ評価するために、どのような方法で評価するかを確認しておきましょう。また、児童全員の学習状況を記録に残す場面の精選するとともに、単元の目標の達成状況を確認し把握するため、「指導と評価の計画」を立てることが重要であることをご確認ください。

5. 単元の評価計画をもとに、本時の評価規準を具体的に定める

「指導と評価の計画」を基に、「Bと判断する児童」について、具体的な姿を想定し、本時の評価規準を設定しましょう。

<評価規準の具体例> 第4時

例文を参考にしながら、各まとまりの「中心となる語や文」を、筆者が「例としてあげている部分」と区別して捉え、表に整理している。

「指導と評価の計画」作成上のポイント

1 単元において、「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点をバランスよくみとる。

2 学習内容に応じて，各時間における指導の重点を設定する。

→ 評価規準を絞る

3 生徒の学習状況を記録に残す場面（○がついている授業）では，生徒全員の学習状況を記録に残す。

ただし，○がついていない授業でも教師が生徒の学習状況を適宜把握し，指導の改善や生徒の学習の改善に生かすことが重要。

どの時間でどの観点をみとるのか精選して
計画を立てることが大切



「指導と評価の一体化」のための学習評価の進め方（中学校）

YOUTUBEに限定公開しています。
次ページ以降のURLをコピーしてブラウザに貼り付けるか、
QRコードをタブレット等で読み取ってご覧ください。



学習評価の改善について（総論）

<https://youtu.be/15GZSDPoww0>



国語

<https://youtu.be/Z8XQ13VpAE4>



数学

<https://youtu.be/6RMXTA53Gko>



英語

<https://youtu.be/7WtBO4IfzL8>



社会

https://youtu.be/0fAqJPW_UcA



理科

<https://youtu.be/6Q8SeExOZNA>



音楽

<https://youtu.be/bVYufAlcyYg>



「指導と評価の一体化」のための学習評価の進

参考資料



美術

<https://youtu.be/fnyUqYOS-a4>



家庭

<https://youtu.be/tFIVDb0Q--k>



保健体育

<https://youtu.be/i2B-Uk5wV8Y>



技術

<https://youtu.be/DylmHFyKU7I>



道徳科

<https://youtu.be/WppOueegsuE>



特別活動

<https://youtu.be/Ndksdn92f2Y>



総合的な学習の時間

<https://youtu.be/Zau2xYWs2B4>

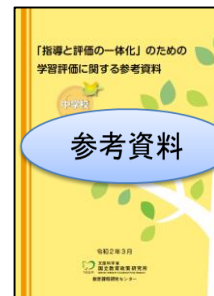


特別支援教育

<https://youtu.be/3TUeT1fFXyg>



評価に係る記録の総括



観点別学習状況の評価に係る記録が観点ごとに複数ある場合の総括の例

① 評価結果のA, B, Cの数を基に総括する場合

観点	氏名	1	2	3	4	総括
知識・技能	大分 太郎	A	A	A	B	A
	豊後 花子	B	B	B	A	B
	大友 次郎	B	A	A	B	A
	目白 歌子	B	C	C	C	C

② 評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する場合

観点	氏名	1	2	3	4	総括
技能知識	大分 太郎	A (3)	A (3)	A (3)	B (2)	A (2.75)
	豊後 花子	B (2)	B (2)	B (2)	A (3)	B (2.25)

例えば、総括の結果をBとする範囲を、 $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ とすると、上記のような総括の結果となります。

総括の仕方をあらかじめ各学校において決めておく必要がある

評定への総括

評定

各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すもの

学年末に評定へ総括する場合

学期末に総括した
評定の結果を基にする

学年末に観点ごとに総括した
結果を基にする

A, B, Cの組合せから評定に総括する場合, 各観点とも同じ評価がそろう場合は,

小学校	AAA	BBB	CCC
	3	2	1
中学校	AAA	BBB	CCC
	5または4	3	2または1

評定の仕方をあらかじめ各学校において決めておく必要がある

3 1時間の授業を構想することについて



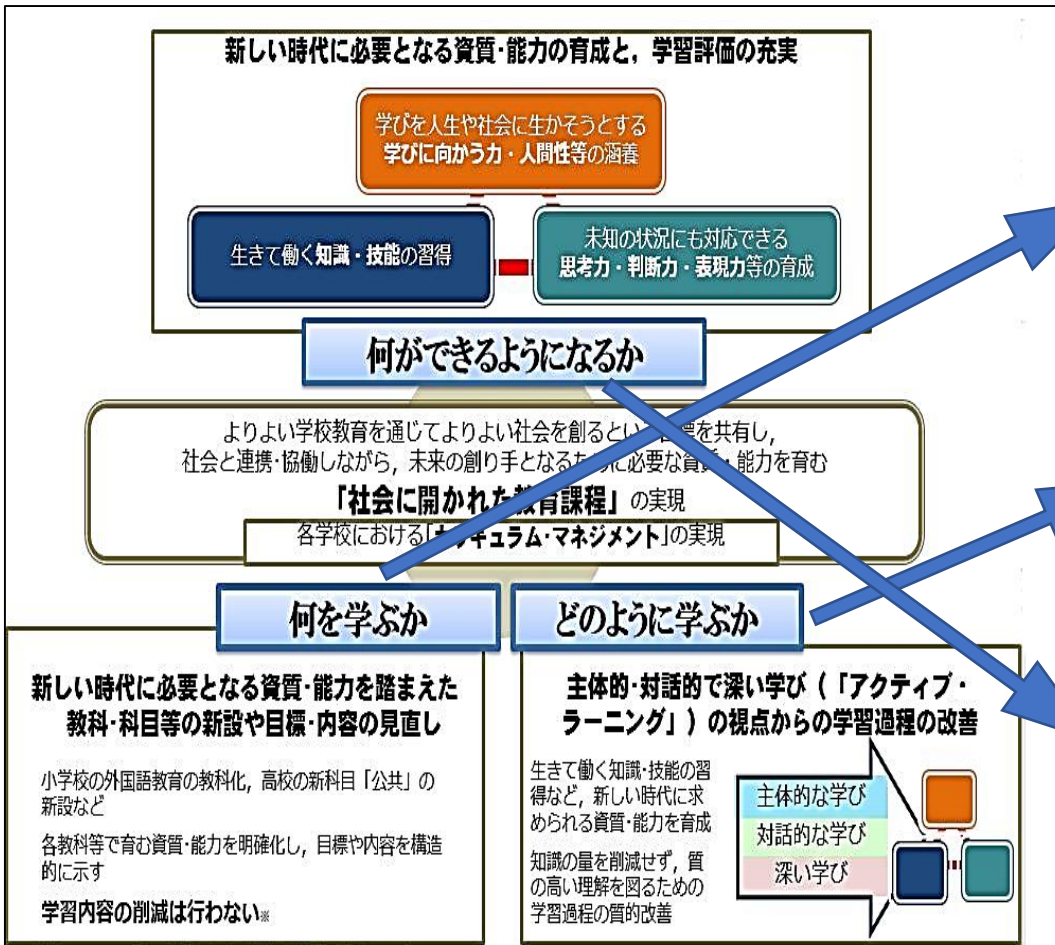
「ねらい」について

【ねらいの書き方の例】

A 学習内容
(～を、～について、等)

B 学習活動
(～～を通して、～～でまとめて、
～～と比べて、等)

C 育成を目指す資質・能力
(～～できるようにする。～～に気付くようにする。～～を高める。等)



「ねらい」について

【ねらいの書き方の例】

A 学習内容

(～を、～について、等)

B 学習活動

(～～を通して、～～でまとめて、
～～と比べて、等)

C 育成を目指す資質・能力

(～～できるようにする。～～に気付くようにする。～～を高める。等)

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	・まだ分かっていない数量を求める場面で、算数で学んだ内容を振り返りながら、方程式の必要性を理解できるようにする。	知		知①：行動観察
2	・方程式とその解の意味を理解し、文字に値を代入して方程式の解を求めることができるようにする。 ・振り返りシートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知		知①：小テスト 態①：行動観察 振り返りシート
3	・具体物の操作等を通して等式の性質を知り、これを基に一次方程式を解く方法について考察し表現することができるようにする。	思		知③：行動観察 思①：行動観察
4	・一次方程式を解くときに、移項することで能率的に解くことができることを理解できるようにする。	知		知②③：行動観察
5	・移項して一次方程式を解くことができるようにする。	知		知②③：行動観察
6	・かっこ、小数を含む一次方程式を解くことができるようにする。	知		知②：行動観察
7	・小数、分数を含む一次方程式を解くことができるようにする。 ・一元一次方程式の解き方について振り返り、自分の解き方を改善しようとする態度を養う。	知 態	○	知②③：小テスト ノート 態①②：行動観察 振り返りシート



「ねらい」について

【ねらいの書き方の例】

- A 学習内容(～を、～について、等)
- B 学習活動(～を通して、～でまとめて、～と比べて、等)
- C 育成を目指す資質・能力
(～できるようにする。～に気付くようにする。～を高める。等)

「新大分スタンダードのすすめ」(第3版)リーフレットから抜粋
(平成31年3月)大分県教育庁義務教育課

評価規準は「ねらい」との整合性をもたせて設定します。

(エラー例)

【ねらい】平ゴムAと平ゴムBののびの違いについて、グループ活動をとおして、
割合を用いて説明できるようにする。

【評価規準】平ゴムAと平ゴムBののびの違いを計算で求めることができる。
⇒ 割合を用いて説明できる。

※昨年までの主な注意事項

「ねらい」について

【ねらいの書き方の例】

A 学習内容(～を、～について、等)

B 学習活動(～を通して、～でまとめて、～と比べて、等)

C 育成を目指す資質・能力

(～できるようにする。～に気付くようにする。～を高める。等)

◆特に、「**B 学習活動**」の記載に留意する。

Bについては、**各教科の見方・考え方**を設定する。

「順序づける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る・多角的に見る、理由づける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「**考えるための技法**」等を意識して設定する。

※考えるための技法【中学校学習指導要領解説『総合的な学習の時間編P79』】

ねらい(管内の学校の実践例)

【小6社】

当時の日本と欧米諸国との関係について、**／3枚の風刺画を見比べながら、その特徴と表す意味について話し合う活動を通して、**／変化の様子を読み取ったりまとめたりできるようにする。

【中2数】

図形の辺上を動く点の変化する時間と三角形の面積の関係について、**／図を基に変化の様子を見通し、表や式、グラフで表しながら関数関係を捉えることを通して、**／比例の関係になることを説明できるようにする。

3 (2) ④

ウ) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

～～略～～

～～小学校低学年・中学年段階では、例えば、学習の目標を教師が「めあて」などの形で適切に提示し、その「めあて」に向かって自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを評価することや、他の児童との対話を通して自らの考えを修正したり、立場を明確にして話していたりする点を評価するなど、児童の学習状況を適切に把握するための学習評価の工夫の取組例を示すことが求められる。



「めあて」の重要性について記載

「めあて」について

【めあて】

付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。単元や題材の「めあて」を提示することもある。

◆管内では次のような「めあて」の設定を共有している学校があります。

①「めあて」と「評価規準」の整合性を図る。

【評価規準】 ～ 説明できる。

【めあて】 ～ 説明しよう。

②「めあて」の中に活動の道筋を入れる。

「〇〇(視点)から考えよう」

「〇〇と△△を比較しよう」 等

教科の見方・考え方を
意識して設定

【めあて(管内の学校の実践例)】

【小5図工】 自分が感じたお話のテーマを、色や背景を工夫して友達に伝えるように表現しよう。

【中1総合】 これまでに調べてきた地域の魅力を決定するための視点を決めて、パンフレットに載せる内容を絞り込もう。

「めあて」について

B e f o r e

中学校1年 音楽

歌唱曲「〇〇」を工夫して歌おう。

+

ゴールまでの道筋を
「音楽的な見方・考え方」を意識して

A f t e r

歌詞や強弱記号に込められた思いを考え、
表現を工夫しよう。

「めあて」について

B e f o r e

小学校5・6年 体育

長い距離をがんばって泳ごう。

+

ゴールまでの道筋を
「体育の見方・考え方」を意識して

A f t e r

息継ぎとフォームに気を付けて長い距離を
泳げるようになるろう。

おわりに

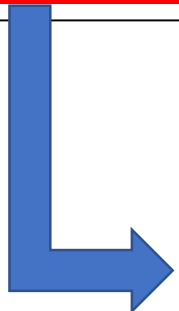


「指導と評価の一体化」の実現

教師が子どもたちにどのような力が身に付いたかという学習の成果を捉え

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図ること

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（全教科）はしがき より



単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して
授業改善を進めること （学習指導要領解説総則編）

⇒ 単元の指導計画の必要性

本日の研修会資料作成に利用した資料

国レベル

- 児童生徒の学習評価の在り方について（報告）
- 学習指導要領解説（文部科学省）
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所）

県レベル（大分県教育委員会 義務教育課）

- 新大分スタンダード
- 新大分スタンダードQA
- 早わかり!単元計画の作成手順

全体研修と教科部会（合同部会の推進）をバランスよく実施してください！





新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

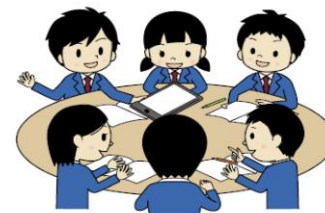
2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書，思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り

*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 →
まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しのなかで行われる

- ・ 知識の関連付け，問題の発見・解決，情報を精査した考えの形成，思いや考えに基づく創造
- ・ 様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充